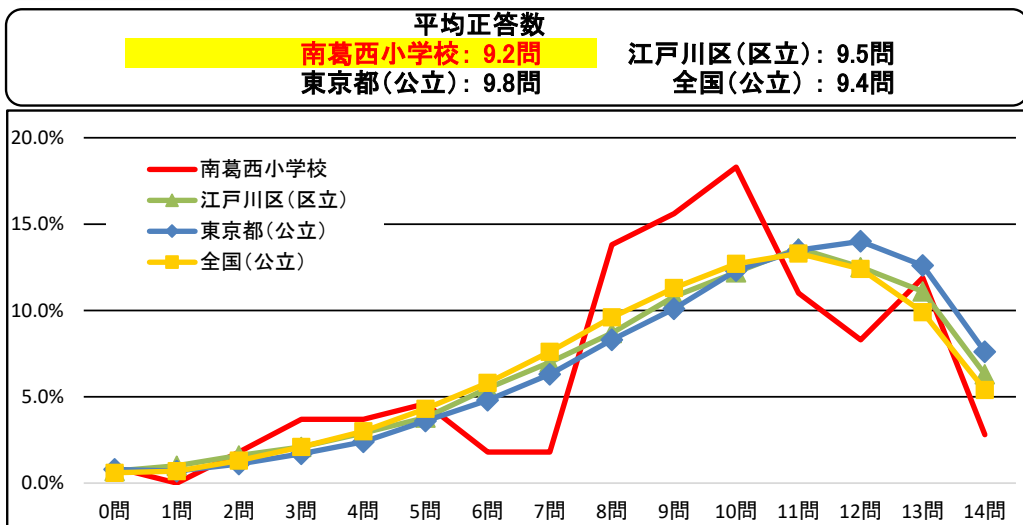


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】南葛西小学校

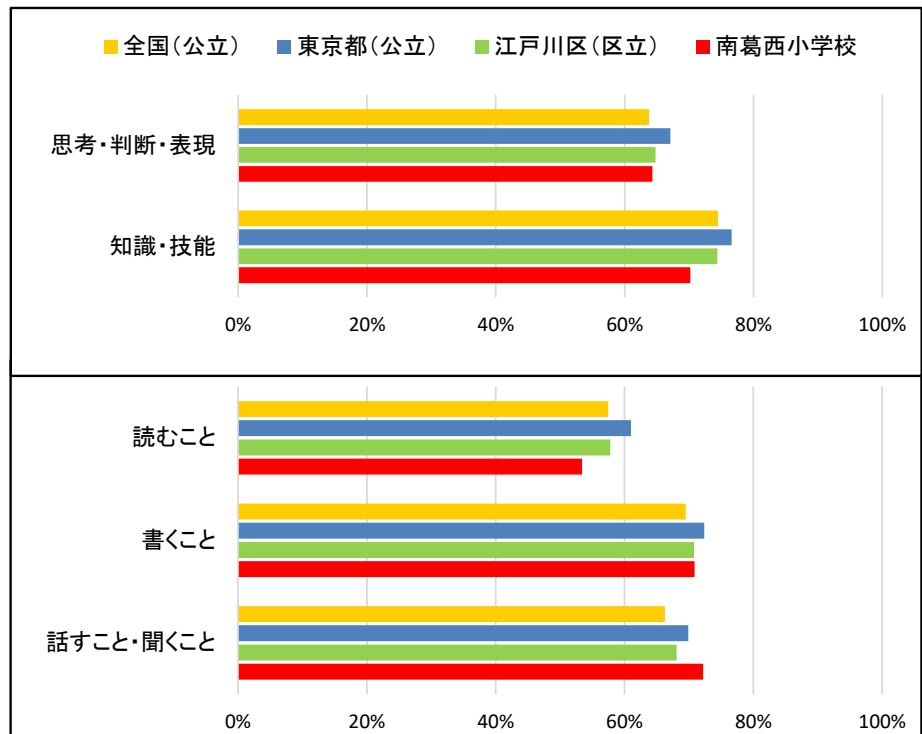
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

南葛西小学校	66%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	-4.0

「領域別」の結果

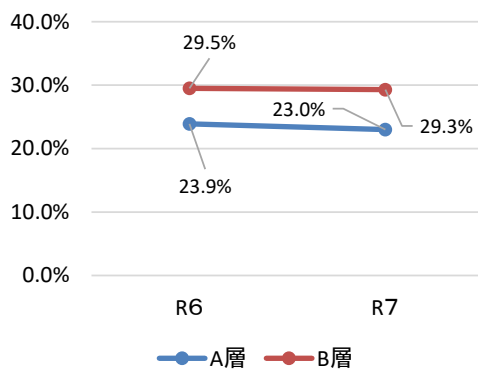


四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

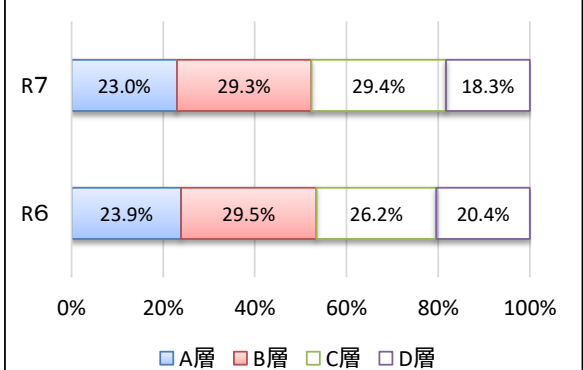
国 語	上位 ← → 下位			
	A層 12～14問	B層 10～11問	C層 8～9問	D層 0～7問
南葛西小学校	23.0%	29.3%	29.4%	18.3%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

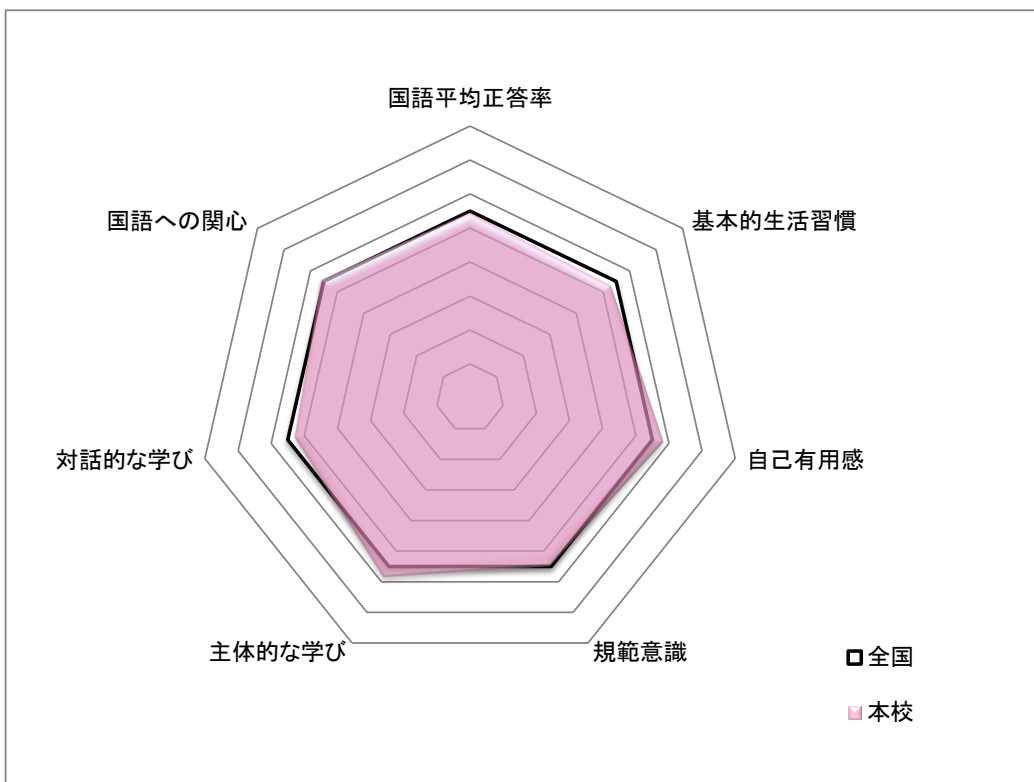
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

- ・国語平均正答率は全国平均正答率を下回っており、基礎基本的事項の定着が不十分であることが分かる。
- ・主体的な学びの平均回答率は全国平均回答率を上回っており、校内研究における問題解決学習による主体的に学ぶ児童の育成の成果が見られる。
- ・対話的な学びの平均回答率は全国平均回答率を下回っており、課題が見られる。
- ・自己有用感の項目では、全国平均回答率を上回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・年度初めに家庭学習の手引きを配布し、家庭での学習習慣が確立できるよう働きかける。
- ・学期ごとに1週間、江戸川っ子study week!を設定し、家庭でのドリルパークの学習機会の確立を図る。
- ・生活リズムウィークを学期の初めに年3回実施し、家庭と連携して基本的な生活習慣の定着につなげる。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

- ・A層の割合は全国平均と比べ下回っているが、B層は上回っている。C層の割合が高いため、AB層への引き上げが課題である。
- ・読むことの領域において苦手な児童が多く見受けられるので、YOMUよむワークシートなどを活用し、読解力の向上を図っていく必要がある。
- ・思考力、判断力、表現力等の「話すこと・聞くこと」の平均正答率が東京都平均より2.3%、全国平均より6%上回っている。日頃の授業での友達との交流活動が成果として表れている。
- ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られる。作文、読書、ミライシード(タブレット学習)で練習を繰り返し、漢字の定着を図る。
- ・長期休業明けに漢字コンテストを実施し、漢字学習への意欲向上につなげた。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

- ・校内研究を通じ、全学年「自分の考えをもち、伝え合う児童の育成」をテーマに、問題解決学習を追究し、指導力向上を図っている。また、毎回の授業で問題解決学習を取り入れることで、主体的に学ぶ児童の育成を図る。
- ・学習スタンダード9つの約束を全教員が児童に徹底させ規律のある授業を行う。また、学力向上委員会が中心となって毎月の各学年の達成度を振り返っている。
- ・江戸川区授業スタンダードの徹底を図り、誰にでも分かりやすい授業を展開する。
- ・授業内でのペア活動やグループ活動などの協働的な学習を通して、「できた！わかった！！楽しい！！」と児童に味わわせ、学習意欲の向上につなげる。また、協働的な学習を通して対話的な学びへの意欲も向上させる。

基礎学力の保障

- ・国語辞典を日常的に手の届く場所に置き、すぐに活用できるようにする。
- ・週に1度YOMUよむワークシートを活用し、読解力の向上を図る。また、問題を解くだけでなく、要旨をまとめたり、課題に対して自分の考えを100字程度で書いたりする活動を取り入れている。
- ・どの教科においても、学習の振り返りや感想を書くことで書く力を高める。
- ・ドリルパークの活用を促し、漢字や言葉などの基礎基本的事項の定着を図る。

・学習習慣の確立

- ・年度初めに家庭学習の手引きを配布し、家庭での学習の習慣が確立できるようにしている。
- ・学期ごとに1週間、江戸川っ子study week!を設定しドリルパークの課題に取り組み、日頃からドリルパークを活用できるよう図っている。

・AB層の育成

- ・YOMUよむワークシートに取り組む際に、新聞記事を読んで100字程度で要旨をまとめる活動を取り入れている。そうすることでAB層の児童を中心に書く力を高めることができる。
- ・学習計画を立て見通しをもって学習に取り組むことで、さらに主体的に学ぶ意欲を高めさせる。
- ・問題解決学習を徹底し、自力解決を図るとともに自分の言葉で説明する力を養えるようにする。